



KMU 金沢医科大学氷見市民病院

| 広 | 報 | 誌 |

かけはし

氷見

KAKEHASHI



患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL

TOPICS ● トピックス

新年のご挨拶

雪吊りの風景(金沢市兼六園)

CONTENTS ● もくじ

TOPICS 新年のご挨拶	P.01
特集 病院機能評価受審・認定、災害対策訓練	P.02
木南先生の診察室から	P.03
診療コラム	P.04
病院★ニュース	P.05
病院からのお知らせ掲示板	P.06
まちかど情報	P.07

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。





新年のご挨拶



最高経営責任者 (CEO)
松本 忠美

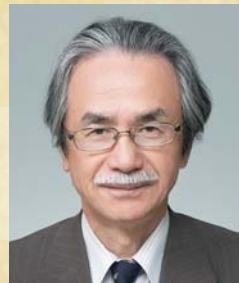
新 年おめでとうございます。今年の冬は暖冬といわれており、昨年末より比較的暖かい日が多く、雪の少ない穏やかな正月を迎えました。

さて、昨年は、東日本が台風による水害や停電など三度の大災害にみまわれ、十月には沖縄の首里城が焼失し、災難が続きました。しかし、五月に令和元年が始まり、天皇陛下の御即位、吉野彰先生のノーベル化学賞の受賞、スポーツにおいて、ゴルフの渋野日向子選手の全英オープンでの42年ぶりのメジャー優勝、ラグビー・ワールドカップでの日本代表の活躍など、多くの明るい話題もあり、流行語大賞にラグビー日本代表の「スローガン」であります「ONE TEAM」が選ばれたのもうなずけます。

さて、金沢医科大学氷見市民病院におきましては、この1年間、大きな事故もなく平穏に過ごすことが出来ました。当院では、一昨年より患者さんからの投書やアンケートを病院のいいね掲示板で紹介し、その結果を公表することにしております。その内容は90%以上が患者さんからの病院や病院職員に対するお礼や感謝の言葉であります。昨年1年間の結果を集計してみますと、感謝される頻度が高いのは、医師、看護師、リハビリテーションスタッフで、患者さんと密に接する職種が多かったのも当然といえば当然です。

この結果を昨年末の病院忘年会で紹介し、優秀な個人や部署を表彰させて頂きました。

今後とも、金沢医科大学氷見市民病院は、病院全体が「ONE TEAM」となり、氷見市民の命と健康を守り、市民の皆様へ質の高いきめ細かな医療を提供して行きたいと考えております。その結果、皆様からより多くのお礼や感謝の言葉を頂けるよう、職員一同いっそう努めてまいります。

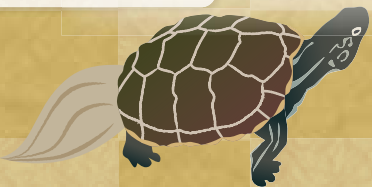


病院長
梅 博久

明 けましておめでとうございます。令和2年の年明けを謹んでお迎えしたいと思います。

金沢医科大学氷見市民病院に就任して1年9ヶ月が経過いたしました。最初に直面したのは平成29年度末での複数医師の退職でした。診療科によっては日常診療にも支障をきたすほどで、早急に医師の補充の必要がありました。内科系は当該科でなくても他科の医師で何とか対応が効きましたが、外科系はそうは行かず、残されたスタッフにかなりの荷重がかかりました。そのような厳しい状況であっても大過なく診療をこなせたのは、ひとえにスタッフの頑張りによるものでした。当該年度の病院実績は何とか前年度並みを確保し、収支はむしろ改善したのは幸いでした。平成31年/令

和元年度は医師をはじめとするスタッフの充実を図りました。大学法人、各診療科、松本CEOをはじめとする方々のご尽力で救急、外科系の医師を確保する事ができ、まずは順調な滑り出しで始められました。病院実績は前年に比べて伸びていません。救急では患者のトリアージが改善され、専門医が日中の患者を担当することになったことで今までの各科の負担が軽減できています。整形外科をはじめとする外科系の先生方の頑張り、病院全体の実績を押し上げています。一方で、実績の伸びが思わしくない診療科もあります。各診療科特有の疾患患者はあまり減っていないように思われますが、いわゆる「common disease」に伴う入院が減少している印象があります。原因については現在分析中ですが、この地区の人口減少が影を落としているのではないかと推量しております。今年度ももう3ヵ月を残すばかりですが、皆様を選んでいただける病院を目指して精進していきたいと思っております。



日本医療機能評価機構 「病院機能評価認定病院」となりました

この度、私共の病院では、日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院2第3世代 ver. 2.0）の認定を受けました。

近年、第三者機関による病院の様々なシステムの評価を受ける事が求められ、全国で約3割を超える病院で認定を受けています。これらの審査では、主に日常的に行われる診療業務において、医療安全に十分な配



慮がなされる態勢が構築されているかを評価するとともに、感染対策や公衆衛生への寄与、医療従事者の教育や育成、地域における医療体制への貢献とスムーズな地域医療連携体制の維持など、病院がもつべき様々な機能の詳細にまで踏み込み評価が行われます。加えて適切な医療情報の管理体制や臨床倫理への取り組み、病院事務管理体制の十分な確立がなされているかを含めて総合的かつ中立的な審査が行なわれます。このような審査を受ける事は、我々の置かれた現状を把握するのみならず、さらなるより良い質の改善のために提案がなされる為に、非常に有意義なものとなっています。

今回の病院機能評価認定

に際しては、全職員が日頃より病院システムの再構築に取り組み、多くの時間を割いて質の改善を継続して行なってきました。全ての審査項目において一定の評価を頂き認定をされましたが、中でも地域医療への貢献に関する項目でS評価（秀でている）を頂きました。この評価は、私共、金沢医科大学氷見市民病院が、最も重要と考える地域医療へ貢献するという理念に対して一定の役割を果たす機能を十分に有している事を示唆しており、今後もさらに氷見市の地域医療に貢献すべく、真摯に取り組んでいきたいと思えます。

（病院機能評価・

自己点検委員会委員長、

副院長 福田 昭宏

病院機能評価とは？

病院機能評価は、第三者機関である日本医療機能評価機構が、患者さんが安心して医療を享受でき、職員が働きやすく、地域に貢献する病院づくりに貢献することを目的として審査を行うものです。

〈認定期間〉

2019年12月5日～
2024年12月4日

〈認定番号〉

JC1994-2 号

〈主たる機能〉

一般病院2
(第3世代 ver.2.0)

令和元年度 災害総合訓練・火災総合訓練

今年度の災害訓練として、12月3日(火)に火災総合訓練、12月4日(水)に災害総合訓練を実施しました。

火災総合訓練では、消防署職員から消火器の正しい使い方や学ぶ消火器訓練や、時間外の訓練として、夜間の職員が少ない時間帯に4階西病棟での出火を想定し、初期消火、避難誘導、安全防護、応急救護、連絡網による呼集訓練を行い、各部署の出火時の対応について確認を行いました。

災害総合訓練は、一次訓練から三次訓練として3つの訓練を行っており、一次訓練は、院内16箇所に出火場所を想定し、各部署で迅速な初期消火が行えるよう消火器、補助散水栓の場所や取扱いを確認しました。二次訓練では、実際に氷見市消防署と連携し、棚の下敷きとなり逃げ遅れとなつた職員を消防隊が救出する訓練や、はしご車を使用し取り残された患者を救出する訓練など本番さながらの訓練となりました。三次訓練は、地震等により市内の負傷者が多数来院される事を想定した



トリアージ訓練を行いました。正面玄関風除室にトリアージエリアを設置し、次々に来院する模擬患者を医師、看護師及び患者受付からなるトリアージチームがトリアージを行い、搬送するまでの動きを確認しました。

実際に災害が起きれば、訓練のように想定通りに行きません。しかしながら、訓練を通じて職員一人ひとりが、基本の動きを身に付け、被害が拡大しないためにはどのように行動すればよいか考え、防火防災意識を高めていくことで、さらに安全安心の病院となるよう取り組んでいきます。

木南先生の 診察室から

一般・消化器外科
臨床教授

木南
伸一

KINAMI
SHINICHI

一般・消化器外科の木南伸一です。

金沢医科大学氷見市民病院に赴任して、最初の冬を迎えました。氷見の皆様には温かく迎えていただき、感謝しております。今回紙面をいただきましたので、自己紹介を兼ねて、一般・消化器外科の診療内容をご紹介します。



外科は、手術によって病気を治療する診療科です。手術の対象となる病気は主に、炎症と機能障害、そして腫瘍です。私たち一般・消化器外科の担当する病気で多いのは、胆石症、胆嚢炎、虫垂炎、腸閉塞、ソケイヘルニア、そして「がん」です。私は医師になってもうすぐ30年になります。30年前、「がん」は治すのが困難な病気でした。当時は有効な抗がん剤はなく、事実上、手術しか治療手段はありませんでした。所属した大学病院では、癌を征圧するため大手術が試みられ、一方で研修を積むために向した一般病院では、効率と安全性が重視され、癌を治す視点からは不十分な手術が行われていました。当時、患者様には正確な病状は告げられていませんでした。駆け出しの私はダメ人間だった(笑)ので、先輩に罵倒されつつ日々の仕事をこなすだけの手一杯でして、考える余裕などありませんでしたが、それでも、こ

れが本当に患者さんのための医療なのか、忸怩たる思いでした。

その後、外科学は進歩し、無謀な大手術から根治性に優れる適正手術へ、大開腹手術から小さな傷の腹腔鏡手術へと変貌しました。抗がん剤も進歩し、手術治療を補完する頼もしい治療法になりました。医療をめぐる環境も進化し、がんの告知と正確な病状説明があたりまえ、ご本人と家族の皆様への希望を最優先する、患者さん本位の治療へと変貌しました。正に隔世の感があります。私はその後、偶然にも指導者に恵まれ、胃癌を専門とする大学人として20年来、手術をしても術前と同じ生活を送っていただけの手術法の開発を研究し、成果を上げてまいりました。これからも、温かくて優秀な病院の仲間と共に、私の学んできたすべてを駆使して、「がん」に負けない生活を皆様に提供させていただきます。よろしくお願いします。

木南 伸一 ★ 略歴

【学歴・職歴】

- ◎ 1990年 金沢大学医学部 卒業
- ◎ 1991年 富山市富山市市民病院 医員
- ◎ 1992年 金沢大学大学院 医学系研究科 外科学第二 入学
- ◎ 1993年 国家公務員等共済組合連合会舞鶴共済病院 外科 医員
- ◎ 1996年 金沢大学大学院 医学系研究科 外科学第二 卒業
- ◎ 1996年 公立井波総合病院 外科 医員
- ◎ 1998年 国立金沢病院 外科 医員
- ◎ 1999年 金沢大学医学部附属病院 第二外科/金沢大学大学院 協力研究員
- ◎ 2005年 金沢大学医学部附属病院 消化器外科 助手
- ◎ 2008年 金沢医科大学 一般・消化器外科学 准教授
- ◎ 2019年 金沢医科大学 一般・消化器外科学 臨床教授
- ◎ 2019年 金沢医科大学 氷見市民病院 一般・消化器外科 科長

【資格】

- ◎ 日本外科学会 外科専門医・指導医
- ◎ 日本消化器外科学会 専門医・指導医
- ◎ 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
- ◎ 日本消化器内視鏡学会北陸支部 支部評議員
- ◎ 日本胃癌学会 評議員
- ◎ 日本臨床外科学会 評議員
- ◎ 日本蛍光ガイド手術研究会 世話人
- ◎ 「胃癌術後評価を考える」ワーキンググループ 発起人



診療コラム

リハビリテーション部

現在リハビリテーション部は、理学療法士30名、作業療法士17名、言語聴覚士2名、看護師1名、介護職員5名、受付1名の合計56名で構成されています。当部には、急性期部門、回復期部門、維持期部門（通所リハ、短時間通所リハ、訪問リハ）の5つの部門があり、急性期から維持期にかけての患者さんに対し、継続的なりハビリを提供出来る体制を整えています。スムーズな退院支援が出来るよう、多職種間で情報共有を図り、包括的な関わりを心掛けています。在宅に帰る際、必要な方には入院中に家屋訪問を行い、安心して在宅復帰出来るよう動作介助指導や必要な福祉用具の選定、在宅改修の提案などを行っています。入院される患者さんは転倒による骨折、脳血管疾患または内部疾患などさまざまですが、複合的な症状を呈しているケースも少なくありません。そのため早期にリハビリテーションを導入し、起居動作の獲得、生活能力の維持や認知機能維持などに

むけ取り組んでいます。

最近では認知症疑いがある方や高次脳機能障害のある方に対して、認知機能評価や高次脳機能評価を行っています。またドライブシミュレーターの機能を利用することで、高齢者の運転免許更新で再検査が必要と判断された方や、身体機能障害や高次脳機能障害のある方に対して自動車運転評価も実施しています。また地域への関わりを積極的に行っていきます。『糖尿病教室』や『100歳体操』の指導員として地域に出向き市民の方々と交流を深めています。在宅と医療との敷居を低くすることで、私たちリハビリテーションスタッフが身近な存在として地域に貢献出来ればと考えています。



ドライブシミュレーター



100歳体操の様子

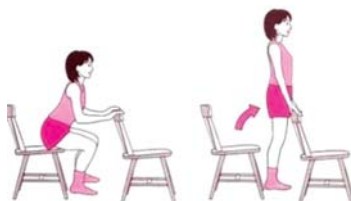
毎日コツコツ手軽に行える

運動の紹介

筋力は年齢と共に低下していくものですが、筋力訓練により、それを予防改善することが出来ます。ガイドラインでも「起立・着座訓練や歩行訓練などの下肢訓練の量を多くすることは、歩行能力の改善のために強く勧められる(グレードA)」とされています。毎日痛みのない範囲で訓練を行うことで①転倒予防②廃用予防③運動機能向上に繋がります。

【起立着座訓練】

1. ゆっくりとしたスピードで行ってください。
2. 回数は15〜20回を3セット目指してください。
3. 太ももの前の筋肉が収縮するのを意識して行って下さい。



【つま先立ち訓練】

1. 背筋を伸ばした姿勢で行ってください。
2. 回数は15〜20回を3セット目指してください。
3. ふくらはぎの筋肉が収縮するのを意識して行って下さい。



「2019年度健康づくり教室」が閉講しました

2019年度健康づくり教室が全6回の開催を終え、閉講を迎えました。

今年で7年目の開催となりますが、今年度も大変多くの方に受講いただきました。

今号では、全6回のうち、後半3回の講演および閉講式についてご紹介します。

【第4回】 9月21日(土)

演 題 「がんを知る、がんと付き合う」

講 師 一般消化器外科 臨床教授 木南 伸一

参加者数 190名

第4回目のテーマは「がん」。

「がん」とはそもそもどんな病気なのか、怖い病気というイメージがありますが、今や2人に1人はがんになるともいわれる非常に身近な病気でもあります。

病気ときちんと向き合い、また自分の人生と向き合うために、正しい知識を身につけ、予防や治療に臨む事が大切であると、ユーモアたっぷり講演されました。

「がんを知る」ことで不安を払拭し、「がんと付き合う」方法を学ぶ事で人生を前向きに生き抜く、今回の講演を通じて、がんや病気との向き合い方を、より身近な問題として考えていただくきっかけとなれば幸いです。

【第5回】 10月19日(土)

演 題 「加齢と眼の病気〜緑内障って、どんな病気?」

講 師 眼科 助教 藤田 信之

参加者数 172名

第5回は、「緑内障」をテーマに講演されました。「緑内障」という眼の病気。耳にしたことはあるものの、実際にはどんな病気なのか、あまりよく知られていない現状に着目し、緑内障の基礎知識

識について分かり易く解説がなされました。

日本人の視覚障害の原因疾患第1位であるにもかかわらず、なかなか自覚症状に気が付きにくく、未治療のまま放置され進行してしまうケースが非常に多いと、その危険性について説明され、定期的な検診のすすめや日常生活で気を付けるべきポイントについて学ぶ事ができました。

【第6回】 11月16日(土)

演 題 「インフルエンザの流行に向けて」

「災害派遣医療について」

「台風19号長野派遣の活動報告」

講 師 救急科 臨床准教授 眞柴 智

参加者数 173名

第6回のテーマは、「インフルエンザ」そして、「災害派遣医療」と、2題にわたり講演が行われました。

1 題目では、これから迎える感染流行期を前に、インフルエンザの基礎知識や、重症化や合併症のリスクについて解説されました。

2 題目の「災害派遣医療」では、講師の眞柴医師が、DMAT(災害派遣医療チーム)の一員として、これまで日本各地の被災地で支援活動にあたってきた経験をもとに、昨年10月に起きた台風19号の被災地での活動体験から、災害現場における医療の実態について、臨場感たっぷりにお話しされました。

近年、防災への関心が高まるとともに、災害時ににおける医療について知識を深める機会となったのではと思います。

【閉講式】

第6回の講演後に、今年度の閉講式を行ないました。

はじめに梅病院長から挨拶があり、今年度4回以上受講された173名の方へ修了証が授与されました。



今年度の受講者数は、1回あたり約200名、延べ1211名と、昨年を上回る大変多くの方に受講いただきました。

この健康づくり教室を通じて、当院の医師をより身近に感じ、いただき、受診のきっかけや治療へ踏み出す機会として、皆さまの健康増進の一助となれば幸いです。



クリスマスコンサート

■日程 令和元年12月21日(土)

当院6階多目的ホールにおいて、りんごステーション(20歳代の若手看護師のサークル)の演奏によるクリスマスコンサートを開催し、入院中の患者さんやそのご家族、通所リハビリに通っている患者さんなど60名余りの方にご参加いただきました。

りんごステーションメンバーから「演奏を聴いて、少しでも明るい気持ちになっていただきたい」との思いを込めてハンドベルで「きよしこの夜」「ジングルベル」とファゴット、キーボードによる「Story」が奏でられ、ゲストで参加していただいた看護師のご家族、河村さんからは「アメーzingグレイス」「冬景色」を美しい歌声で披露され、優しい歌声と演奏に会場は暖かい空気に包まれました。

最後は参加者も一緒に「ふるさと」を合唱し、楽しいコンサートのひとときを過ごしました。

本日の音楽が患者さんの癒しとなり少しでも早く回復していただけますように、これからもこのような企画でみなさんの支えになりたいと思います。



令和元年度 臓器移植研修会

■日程 令和元年11月25日(月)

当院6階多目的ホールにて当院職員を対象とした臓器移植研修会を開催しました。開会には齋藤淳史臓器移植委員会委員から挨拶の後、2つの講演が行われました。

1つ目は、「献眼の適応と流れ」と題して、公益財団法人富山県アイバンクの入江真理先生から、当院のこれまでの献眼実績や献眼が可能である基準についての説明を取り入れながら講演が行われました。

2つ目は、「献眼に際しての手技・処置について」と題して藤田信之臓器移植委員会委員が、画像や動画を交えながら献眼を行なうための眼球摘出や移植片作成などについて講演を行いました。

当日は44名の参加者があり、参加者からは画像や動画を取り入れたことで、献眼の流れが分かり易かったとの感想がありました。今後も継続して臓器移植に関する啓発活動を行い、移植医療の推進に努めたいと思います。



病院からの お知らせ掲示板

消費増税に伴う料金変更について

令和元年10月1日から消費税が増税されましたが、それに伴い当院の各種料金も変更がございます。

<初診加算>	金額(8%)	金額(10%)
非紹介患者初診加算料	1,620円	1,650円
<文書料等>	金額(8%)	金額(10%)
一般診断書	1,620円	1,650円
死亡診断書	3,240円	3,300円
死体検案書	5,400円	5,500円
厚生年金診断書	4,320円	4,400円
国民年金診断書	4,320円	4,400円
生命保険金受給死亡診断書	5,400円	5,500円
身体障害者用認定診断書	1,620円	1,650円
自動車損害賠償保険関係診断書	5,400円	5,500円
病歴書	3,240円	3,300円
一般証明書	1,620円	1,650円
自動車損害賠償責任保険の受給に関する証明書	4,320円	4,400円
医療費領収証明書	1,620円	1,650円

電子カルテ停止に伴う 救急搬送の受け入れ制限について

当院では、更なる医療サービスの向上と安全な医療の提供のため、電子カルテシステムの更新を令和2年2月22日(土)から2月23日(日)にかけて実施します。

この更新の間、救急車の受入れの停止及び、救急診療の際におきましては、待ち時間等が長くなる場合もありますのでご了承ください。詳細につきましては、後日当院ホームページに掲載させていただきます。

皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

冬季の駐車場利用について ～病院からのお願い～

冬期間中は積雪や凍結が起り、当院でも毎年、駐車場や構内道路での転倒や事故が非常に多く発生しています。

病院の敷地内については、職員による除雪作業を行い、患者さんへの危険が少なくなるよう努力しておりますが、来院の際は十分ご注意ください。

歩行者の方へ

滑りにくい靴の着用や、足元を意識してゆっくり歩くなど、転倒には十分注意の上、時間に余裕をもって来院ください。

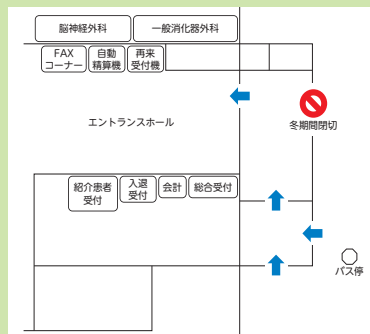
自動車であ来院の方へ

天候による視界不良や、路面凍結によるスリップの恐れがあるため、駐車場や構内道路では最徐行の徹底をお願いします。また、積雪により十分な駐車スペースが確保できない場合もございますが、ご理解の程をお願いします。

正面玄関の 閉め切りについて

当院の正面玄関は、院内の温度を維持するため冬季閉鎖しております。

ご来院の際は、正面玄関左手の風除室からお入り下さい。ご理解・ご協力の程お願いいたします。



マスク自動販売機の 設置について

当院では、マスクの自動販売機を院内に3台設置しております。

設置場所は、エントランスホールTV横(1台)、救急外来入口横(2台)です。

マスク2枚入100円で販売しておりますので、インフルエンザなど感染症予防のためにご利用ください。

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報 は 厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

まちかど情報

ひみぶりフェア

氷見にしかない旬がある、今しか逢えない、
ひみの名は“寒ぶり”

今年もこの季節がやってきた！！富山湾の冬の王様「氷見の寒ぶり」。ひみぶりフェアとは、氷見市内の民宿や割烹、寿司屋など約30店舗の参加店でプリコース（ぶり刺身、ぶりしゃぶ、ぶり大根など）お店独自のぶりづくし料理を堪能することができる期間のことです。

「氷見の寒ぶり」とは、富山湾の定置網で捕獲され、氷見漁港で競られたプリのことであり、大きさや数量、形などを、判定委員会が総合的に判断して「氷見寒ぶり宣言」を行うことで本格的なシーズンの幕開けとなります。

今回、数ある飲食店の中から伺ったのは、氷見漁港競り場から数メートル、氷見漁港2階「魚市場食堂」です。氷見漁港内という抜群の立地ということもあり、“きっときと”な魚を求めて、お昼時ともなれば観光客でいっぱい…。

寒さ沁みるこの季節ではありますが、極寒の海に磨かれ旨味というサブリをたっぷり蓄えたプリが皆様の心のスキマを埋めてくれることでしょう。



表紙について

北陸の冬の風物詩「雪吊り」。雪吊りの中でも代表的なのが日本三名園の1つ「兼六園」です。金沢の雪吊りはまず兼六園から始まり、毎年11月1日から約1ヵ月かけて作業が行われ、北陸地方特有の重い雪から木の枝を守るために放射状に縄が施されます。今年は暖冬のため雪が積もらず、おかげで雪かきをすることもなく大変過ごしやすいい日が続いていますが、白く雪化粧された美しい雪吊りの風景が見られないのは少し残念に感じます。異常気象や気候変動の多い近年、日本らしい四季折々の美しい景色が失われぬよう祈るとともに、来冬の雪景色を期待したいと思います。

編集後記

「令和」という新しい時代の幕が明け、ラグビーワールドカップが日本中を大いに盛り上げてくれた2019年。2020年は、いよいよ東京オリンピックが開催されます。前回、東京で開催されたオリンピックが1964年ということで、今大会には、新たな時代にふさわしい記憶に残る大会となることを期待してやみません。思えば1998年、長野で開催された冬季オリンピック、スキージャンプにおいて悪天候の中、掴み取った栄光の金メダル、日の丸飛行隊のあの雄姿は今も忘れません。今でも思い出す小学校の教室でみんなで見えたあの光景は、まだ幼かった私の脳裏に焼き付き、今も尚はしっかりと覚えています。コンディションは、いつもベストとは限らない、雨雪降り続き、向かい風の中でも飛び立てる事を彼らは教えてくれました。

新しい年の大きな飛躍を祈念いたします。

かけし冬号編集委員 医事課 松岡 励

■広報誌「かけし 氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけし」となることを願って命名されました。